



F コマンド

ここでは、[f] から始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

feature bgp

Border Gateway Protocol (BGP; ボーダー ゲートウェイ プロトコル) をイネーブルにするには、**feature bgp** コマンドを使用します。BGP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature bgp

no feature bgp

シンタクスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン BGP を設定する前に、BGP 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、BGP 設定をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature bgp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show bgp	BGP 構成情報を表示します。
	router bgp	BGP インスタンスを作成します。

feature eigrp

Enhanced IGRP (EIGRP) をイネーブルにするには、**feature eigrp** コマンドを使用します。EIGRP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature eigrp

no feature eigrp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン EIGRP を設定する前に、EIGRP 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、EIGRP 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature eigrp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show eigrp	EIGRP 構成情報を表示します。
	router eigrp	EIGRP インスタンスを作成します。

feature glbp

Gateway Load Balancing Protocol (GLBP; ゲートウェイ ロード バランシング プロトコル) をイネーブルにするには、**feature glbp** コマンドを使用します。GLBP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature glbp

no feature glbp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン GLBP オプションを設定するか GLBP グループを作成する前に、GLBP をグローバルにイネーブルにする必要があります。

このコマンドではライセンスは不要です。

例 次の例では、GLBP をイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# feature glbp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	authentication	GLBP グループに認証ストリングを設定します。
	forwarder preempt	ゲートウェイが現在の Active Virtual Forwarder (AVF; アクティブ バーチャル フォワーダ) より高いプライオリティをもつ場合、ゲートウェイが GLBP グループの AVF として引き継がれるように設定します。
	ip (GLBP)	GLBP グループをアクティベートします。
	load-balancing	GLBP の Active Virtual Gateway (AVG; アクティブ バーチャル ゲートウェイ) によって使用されるロード バランシング方式を指定します。
	preempt	ゲートウェイが現在の AVG より高いプライオリティをもつ場合、ゲートウェイが GLBP グループの AVG として引き継がれるように設定します。
	priority	GLBP グループ内のゲートウェイのプライオリティ レベルを設定します。
	show glbp	GLBP 情報を表示します。
	timers	GLBP ゲートウェイによって送信される hello パケット 間の時間、およびバーチャル ゲートウェイとバーチャル フォワーダの情報が有効とみなされる時間を設定します。

コマンド	説明
timers redirect	GLBP グループの AVG がセカンダリ AVF にクライアントをリダイレクトし続ける時間を設定します。
track	GLBP 重み付けの変更がインターフェイスの状態に基づいている場合、インターフェイスを追跡するように設定します。
weighting	GLBP ゲートウェイの最初の重み値を指定します。
weighting track	GLBP 重み値の変更が追跡されるオブジェクトのアベイラビリティに基づいているトラッキング オブジェクトを指定します。

feature hsrp

Hot Standby Router Protocol (HSRP; ホットスタンバイ ルータ プロトコル) コンフィギュレーション モードを開始して HSRP をイネーブルにするには、**feature hsrp** コマンドを使用します。HSRP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature hsrp

no feature hsrp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **feature hsrp** コマンドを使用し、HSRP コンフィギュレーション モードを開始して HSRP をイネーブルにします。

このコマンドではライセンスは不要です。

例 次に、インターフェイス Ethernet 1/1 で HSRP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature hsrp
switch(config-hsrp)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hsrp group	HSRP グループを作成し、アクティベートします。
	show hsrp	HSRP 情報を表示します。

feature isis

Intermediate System to Intermediate System Protocol (IS-IS) をイネーブルにするには、**feature isis** コマンドを使用します。IS-IS をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature isis

no feature isis

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン IS-IS を設定する前に、IS-IS 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、IS-IS 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature isis
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show isis	IS-IS 構成情報を表示します。
	router isis	IS-IS インスタンスを作成します。

feature ospf

OSPF (Open Shortest Path First) プロトコルをイネーブルにするには、**feature ospf** コマンドを使用します。OSPF をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature ospf

no feature ospf

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OSPF を設定する前に、OSPF 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、OSPF 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature ospf
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ospf	OSPF 構成情報を表示します。
	router ospf	OSPF インスタンスを作成します。

feature ospfv3

OSPFv3 (Open Shortest Path First バージョン 3) プロトコルをイネーブルにするには、**feature ospfv3** コマンドを使用します。OSPFv3 をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature ospfv3

no feature ospfv3

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OSPFv3 を設定する前に、OSPFv3 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、OSPFv3 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature ospfv3
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ospfv3	OSPFv3 構成情報を表示します。
	router ospfv3	OSPFv3 インスタンスを作成します。

feature pbr

Policy-Based Routing (PBR; ポリシーベース ルーティング) 機能をイネーブルにするには、**feature pbr** コマンドを使用します。PBR をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature pbr

no feature pbr

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン PBR を設定する前に、PBR 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、PBR 機能をイネーブルにする例を示します。
`switch(config)# feature pbr`

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ip policy route-map</code>	インターフェイスにポリシーベースのルート マップを割り当てます。
	<code>show ip policy</code>	PBR に関する情報を表示します。

feature rip

Routing Information Protocol (RIP) をイネーブルにするには、**feature rip** コマンドを使用します。RIP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature rip

no feature rip

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン RIP を設定する前に、RIP 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドではライセンスは不要です。

例 次に、RIP 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature rip
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show rip	RIP 構成情報を表示します。
	router rip	RIP インスタンスを作成します。

feature vrrp

Virtual Router Redundancy Protocol (VRRP; 仮想ルータ冗長プロトコル) をイネーブルにするには、**feature vrrp** コマンドを使用します。VRRP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature vrrp

no feature vrrp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン VRRP を設定する前に、VRRP 機能をイネーブルにする必要があります。
このコマンドではライセンスは不要です。

例 次に、VRRP 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature vrrp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show vrrp	VRRP 設定情報を表示します。
	clear vrrp	指定の仮想ルータの全ソフトウェア カウンタを消去します。

flush-routes (OSPF)

OSPF (Open Shortest Path First) プロトコルのノングレースフルな制御された再起動でルートをフラッシュするには、**flush-routes** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

flush-routes

no flush-routes

シンタックスの説明 なし

デフォルト ディセーブル

コマンド モード ルータ コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OSPF グレースフル リスタート機能がイネーブルになっていない場合、**flush-routes** コマンドを使用します。

このコマンドを使用すると、OSPF は、OSPF がシャットダウンするとき、ユニキャスト Routing Information Base (RIB) から登録解除されます。ユニキャスト RIB は、この OSPF インスタンスに関連付けられたすべてのルートを削除します。**flush-routes** コマンドを設定しない場合、OSPF は登録解除されず、OSPF ルートは古くなります。OSPF ルートは、タイムアウト期間後、最終的にユニキャスト RIB から削除されます。OSPF がグレースフル リスタート モードで再起動すると、ルートはユニキャスト RIB にリフレッシュされます。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、ノングレースフル リスタートでルートをフラッシュする例を示します。

```
switch(config)# router ospf 202
switch(config-router)# flush-routes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	graceful-restart	OSPF グレースフル リスタートをイネーブルにします。

flush-routes (OSPFv3)

OSPFv3 (Open Shortest Path First バージョン 3) プロトコルのノングレースフルな制御された再起動でルートをフラッシュするには、**flush-routes** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

flush-routes

no flush-routes

シンタックスの説明 なし

デフォルト ディセーブル

コマンド モード ルータ コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OSPFv3 グレースフル リスタート機能がイネーブルになっていない場合、**flush-routes** コマンドを使用します。

このコマンドを使用すると、OSPF は、OSPFv3 がシャットダウンするとき、ユニキャスト Routing Information Base (RIB) から登録解除されます。ユニキャスト RIB は、この OSPF インスタンスに関連付けられたすべてのルートを削除します。**flush-routes** コマンドを設定しない場合、OSPFv3 は登録解除されず、OSPFv3 ルートは古くなります。OSPFv3 ルートは、タイムアウト期間後、最終的にユニキャスト RIB から削除されます。OSPFv3 がグレースフル リスタート モードで再起動すると、ルートはユニキャスト RIB にリフレッシュされます。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、ノングレースフル リスタートでルートをフラッシュする例を示します。

```
switch(config)# router ospfv3 202
switch(config-router)# flush-routes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	graceful-restart	OSPFv3 グレースフル リスタートをイネーブルにします。

forwarder preempt

現在の Active Virtual Forwarder (AVF; アクティブ バーチャル フォワーダ) がその低い重み付けしきい値を下回った場合に、ゲートウェイが Gateway Load Balancing Protocol (GLBP; ゲートウェイロード バランシング プロトコル) グループの AVF として引き継がれるように設定するには、**forwarder preempt** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
forwarder preempt [delay minimum seconds]
```

```
no forwarder preempt [delay minimum seconds]
```

シンタックスの説明	<i>delay minimum seconds</i> (任意) ゲートウェイが AVF のルールを引き継ぐ前に遅延する最小秒数を指定します。範囲は 0 ~ 3600 秒で、デフォルト遅延は 30 秒です。
-----------	--

コマンドのデフォルト設定	フォワーダ強制排除は、30 秒のデフォルト遅延でイネーブルになります。
--------------	-------------------------------------

コマンド モード	GLBP コンフィギュレーション
----------	------------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
---------------	----------------------

コマンド履歴	<table border="1"><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン	このコマンドではライセンスは不要です。
------------	---------------------

例	次に、現在の AVF がその低い重み付けしきい値を下回った場合に、ゲートウェイが現在の AVF を強制排除するように設定する例を示します。ゲートウェイが現在の AVF を強制排除した場合、ゲートウェイは AVF のルールを引き継ぐ前に 60 秒間待ちます。
---	--

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# glbp 2
switch(config-mlag)# forwarder preempt delay minimum 60
```

関連コマンド	<table border="1"><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>glbp</td><td>GLBP コンフィギュレーション モードを開始し、GLBP グループを作成します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	glbp	GLBP コンフィギュレーション モードを開始し、GLBP グループを作成します。
コマンド	説明				
glbp	GLBP コンフィギュレーション モードを開始し、GLBP グループを作成します。				

